

## 令和 6（2024）年度 資源評価調査状況報告書（拡大種）

### アカエビ瀬戸内海

対象水域	瀬戸内海	参画機関名	水産研究・教育機構 水産技術研究所 生産技術部、大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター、徳島県農林水産総合技術支援センター 水産研究課、大分県農林水産研究指導センター 水産研究部 北部水産グループ
------	------	-------	--

- ・ 令和 5 年度資源評価調査報告書を公表済み（[https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_194.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_194.pdf)）、次回令和 7 年度を予定

#### (1) 調査の概要

- ・ 参画機関は、本種に関する漁獲量や努力量、CPUE等の漁獲統計調査を実施
- ・ 本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

#### (2) データ収集状況

- 大阪府では下記データを収集済み
  - ・ 1984年以降の、標本漁協における小型底びき網（石桁網）による本種を含む小エビ類（他にサルエビ、トラエビの2種が混ざる）の年別および月別の漁獲量、総操業隻数ならびにCPUE（kg/日隻）
  - ・ 2020年6月以降の、標本漁協における小型底びき網（石桁網）漁船1隻による小エビ類の漁獲物の種組成とそれから推定される本種の月別での漁獲量とCPUE（kg/日隻）
  - ・ 2020年6月以降の、標本漁協における小型底びき網（石桁網）漁船による漁獲物の体サイズ組成
- 徳島県では下記データを収集済み
  - ・ 2005年以降の、播磨灘南部、紀伊水道中部ならびに紀伊水道南部の標本漁協における小型底びき網漁船によるアカエビを含む小エビ類（アカエビ、サルエビ（雄）、トラエビの3種が混ざる）の月別での漁獲量と水揚げ隻数、有漁時CPUE（kg/日隻）
- 大分県では下記データを収集済み
  - ・ 1981年以降の、周防灘で操業する小型底びき網標本船の本種を含む小エビ類（ほかにサルエビ、トラエビ、キシエビの3種が混ざる）の年別の漁獲量と総操業隻数、CPUE（kg/日隻）

- 機構では下記データを収集済み
- ・各府県の収集したデータや生物学的特性

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：令和5年度資源評価調査報告書を参照 ([https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends\\_2023\\_194.pdf](https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2024/03/trends_2023_194.pdf))
- (2) 年齢・成長：同上
- (3) 成熟・産卵：同上
- (4) 被捕食関係：同上

(4) 備考

- 瀬戸内海の各海域における本種の漁業および関連する各種規制措置等
- ・大阪府、徳島県、大分県の全てにおいてアカエビのデータには混獲種が含まれており、これらのデータによって資源状態を正確に把握することは困難である
  - ・大阪府では、主に小型底びき網の1種である石桁網により漁獲される
  - ・山口県の周防灘では、主に小型底びき網で漁獲される。その他の小型エビ類（トラエビ、キシエビ等）と共に「赤えび」として取引されている
  - ・山口県の周防灘では、春～秋は手繰第二種（えび漕ぎ）、秋～春は手繰第三種（桁網）での操業であるが、周年、手繰第二種を操業する漁業者もいる
  - ・山口県の周防灘では小エビ類は市場に出荷されず、漁業者が直接各エビ加工業者等に出荷するために、漁協・支店も漁獲量等を把握することができない